平成 24 年度　斜面樹林化技術協会現地見学会の開催報告

平成 24 年 10 月 31 日（水）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会が上信越自動車道太郎山トンネル（長野県埴科郡坂城町）の施工地で開催されました。当日は協会員 12 名が参加し，施工 19 年後の植生状況を見学しました。

この現場は，1991～1993 年度にかけて，日本道路公団東京第二建設局（当時）より社団法人道路緑化保全協会（当時）に委託されて組織された「上信越自動車道・佐久～更埴間切土法面修景計画検討委員会(委員長:新田伸三九州芸術工科大学名誉教授)により計画された経緯があります。委員長は当時の報告書の中で「あえて外来草本を使用せず，木本種子主体で緑化することは，従来の緑化工の考え方を変える画期的なことである」と述べています。緑化工は，アカマツ，ヤシャブシ，ヤマモミジ主体の中高木林型の木本群落形成を緑化目標として, 1993 年 8 月 27 日～9 月 7 日に吹き付けが行われました。

施工後 19 年が経過した現在では，ヤマモミジが被度 5, 平均樹高約 5.2m で優占する中高木林型の在来種木本群落が形成され，斜面樹林化工法による自然回復緑化の有効性が実証されています。



施工現場の境界 (奥の樹林が施工地)



現場説明を受ける参加者



参加者一同 (施工地ををバックに)